



FUSO TOPICS 2018-2024

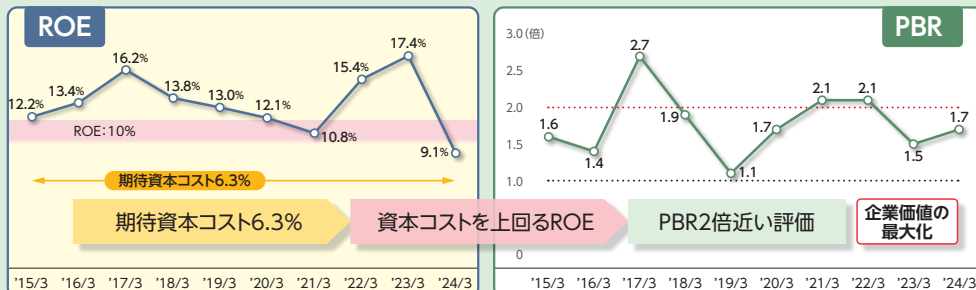
第62期中間事業報告書から第67期事業報告書までの特集・トピックスを掲載



TOPICS 1 資本コストや株価を意識した経営

当社の株主資本コストは6.3%と試算しており、ROE10%を達成できれば、付加価値を創出できていると考えております。当社ROEは、2021年度、2022年度と2期連続で15%を上回るとともに過去最高益を更新しておりましたが、2023年度は電子材料事業における先行投資に伴う償却費負担が大きく、ROEは10%を下回る結果となりました。一方、当社PBRは2015年頃まで1倍を下回る状態が続いておりましたが、東証1部(現プライム市場)上場以降、継続して1倍超を維持しております。

当社の中長期的な収益の安定性や成長性に対して株式市場から十分な評価を得られる様、各施策を着実に実施してまいります。



● ROE: 自己資本利益率 (Return on Equity) 自己資本に対する当期純利益の比率
● PBR: 株価純資産倍率 (Price Book-value Ratio) 一株あたり純資産に対する株価の倍率 ('24/3については2024年3月25日終値で計算)

TOPICS 2 PMP社における設備増強



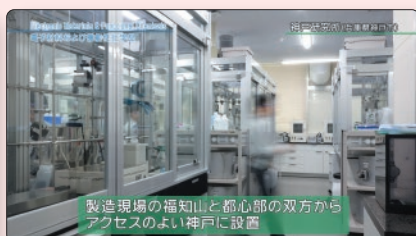
当社の米国連結子会社であるPMP Fermentation Products, Inc. (PMP社) は、コンクリート混和剤や、肥料、食品向け等様々な用途に使用されるグルコン酸及びグルコン酸ナトリウムを製造・販売する北米唯一のメーカーです。コロナ禍からの経済回復が進む北米市場において、引き続き需要の拡大が見込めることから、増産

のための設備投資を進め、2023年10月に完成いたしました。当該製品は、今回の増産投資により製造能力を約2割増強し、お客様からの需要増にお応えしてまいります。

TOPICS 3 会社紹介動画更新



◀こちらからご覧ください



当社ホームページ上で公開中の会社紹介動画の内容の一部をアップデートしました。鹿島事業所の超高純度コロイダルシリカの
新製造設備、京都事業所から移転した新しい研究開発拠点「神戸

研究所」、「上海食品調味料開発センター」など海外子会社の最新の様子を盛り込んでおります。是非、ご覧ください。

topics 1 本社移転

本社を日本生命淀屋橋ビルに移転し、9月19日より業務を開始しました。

新本社は全部署がワンフロアで勤務できるオープンな空間となります。部門を超えた、より活発なコミュニケーションを促し、アイデアやイノベーションの創出を目指したレイアウトです。

また、オフィスの一新に合わせて、ペーパーレス化を徹底するため文書管理システムを新たに導入し、業務の効率化も図っています。今後も従業員の生産性向上を目指すとともに、従業員が働きやすい快適な職場環境を整えることに注力してまいります。



topics 2 鹿島事業所Ⅱ期工事起工式

8月28日鹿島事業所にて、超高純度コロイダルシリカ製造設備のⅡ期建設工事を始めるにあたり、工事の安全と順調な完成を祈念して起工式を執り行いました。

4月には鹿島事業所内に超高純度コロイダルシリカの新しい製造設備が完成し（Ⅰ期工事）、順調に稼働が進んでいる中で、製品供給力をより一層高めるための追加設備投資となります。半導体市況の回復と継続的需要増を見据え、2025年7月の完成に向けて建設を進めてまいります。



▲2025年7月Ⅰ期・Ⅱ期完成予定図

topics 3 夏休み科学実験教室開催

8月下旬、株式会社オレンジページ協力の下、親子で楽しむ科学実験教室を開催しました。

参加者の方には、クイズや実験に実際に取り組んでもらいながら、身近な生活の中であって、おいしさにも深く関わっている様々な酸味料（果実酸）の特徴や、酸味料を含む食品添加物の特性を知って頂きました。また、当社が提供する酸味料が食の安全を守るだけでなく、食生活を豊かにし、フードロスに貢献していることを知ってもらえる良い機会となりました。





1 電子材料事業 新製造設備竣工

鹿島事業所



シリカ充填出荷棟

鹿島事業所内に、超高純度コロイダルシリカの製造設備が完成しました。これによって電子材料事業部門は、京都事業所(京都府福知山市)の既存2工場に、東日本の製造拠点を加えることとなり、お客様からのBCP(事業継続計画)対策の要求に応えつつ、当社の高品質な製品供給力の優位性を一段と高めてまいります。この新設備で製造される超高純度コロイダルシリカは、主に半導体製造工程での精密研磨剤・CMP(化学的機械的平坦化)用途で使用されています。今後も継続的な需要の拡大が予想されるため、鹿島事業所内に2025年夏完工を目指し、更なる設備投資工事も計画しております。



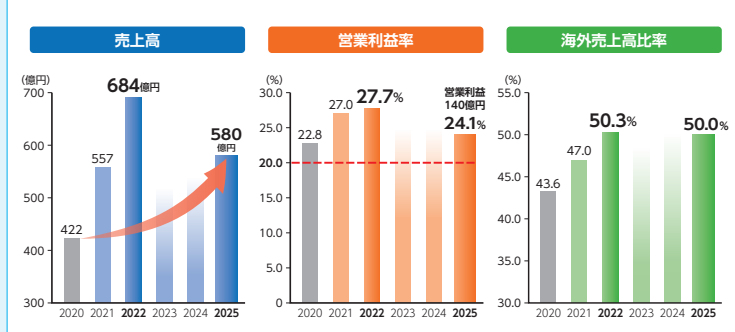
2 「中期経営計画」上方修正

当社は2021年度より5年間の中期経営計画「FUSO VISION 2025」の完遂に向け、事業活動を推進してまいりました。その結果、売上高・営業利益率をはじめとする業績が、計画策定当初の想定を大きく上回

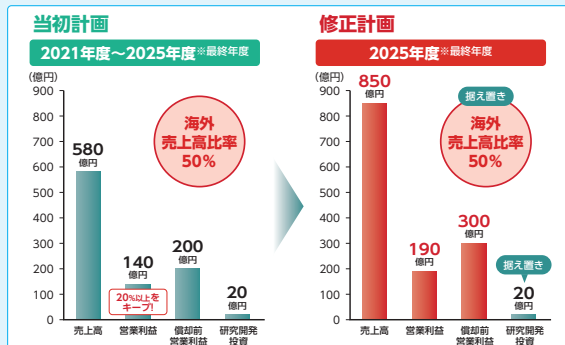
りました。さらに、足元の事業環境が目まぐるしく変化していることも受けて、最終年度の経営目標を変更いたしました。引き続き、新たな目標達成に向けて取り組んでまいります。

FUSO VISION 2025 進捗と修正計画の概要

1. 2年間の進捗



2. 新たな経営目標



3 「サステナビリティ報告書」公開



サステナビリティ基本方針を公表後、当社は気候変動対策に関する情報開示やESG(環境・社会・ガバナンス)の課題解決に取り組み、2022年12月に初めて報告書として公開しました。「サステナビリティ報告書」は、当社ホームページのサステナビリティページからご覧いただけます。



▲サステナビリティページはこちら



4 鹿島アントラーズとのクラブパートナー契約締結

鹿島でライフサイエンス事業を展開するようになって6年目。2023年4月より電子材料事業の生産設備も整い、鹿島事業所はますます重要な役割を担っていくことになります。鹿島地域から勇猛果敢に勝利を目指すフットボールクラブとのパートナー契約を通じて、更なる飛躍を目指す当社の存在を鹿島周辺地域にアピールしていきたいと考えています。



©1992 K.A.F.C

TOPICS①ライフサイエンス事業

PMP社における設備投資

当社の米国連結子会社であるPMP Fermentation Products, Inc. (PMP社)は、コンクリート混和剤用途、肥料用途、食品用途等様々な用途に使用される化学品「グルコン酸ナトリウム」類を製造・



販売する北米唯一のメーカーです。コロナ禍からの経済回復が進む北米市場において、今後も引き続き需要の拡大が見込めることから、増産設備投

資により製造能力を約2割増強させることを目指しています。当該製品に対して、現在もお客様からの多くの供給要望をいただいておりますが、今回の増産投資により供給体制を整え、需要にお応えしてまいります。

| | |
|--------|---------------------------|
| 設備投資内容 | 主発酵槽および付帯設備、各種タンク、その他 |
| 投資予定額 | 約12億円(855万米ドル) ※1米ドル=140円 |
| 資金計画 | PMP社自己資金により充当 |
| 操業開始時期 | 2023年10月(予定) |

■PMP社 主要な損益情報(2022年3月期)

| | |
|-------|--------------------|
| 売上高 | 61.7億円(55.0百万米ドル)* |
| 経常利益 | 13.0億円(11.6百万米ドル)* |
| 当期純利益 | 9.4億円(8.4百万米ドル)* |

*為替換算レート:1米ドル=112.38円

TOPICS②電子材料事業

「神戸研究所」開設



これまで当社電子材料および機能性化学品事業部は日本国内に二つの研究開発拠点(福知山市・川崎市)を有して

おりましたが、京都事業所内の研究開発拠点(福知山市)を移転し、2022年7月に「神戸研究所」として設立いたしました。

同施設は、ますます高度化する半導体産業へ着実な技術提供を実現するため、電子材料事業の研究・技術開発を主導する役割を担い、当社グループ技術革新の最重要拠点と位置付けています。また、神戸空港や関西主要都市部だけでなく、量産体制の拠点である京都事業所ともアクセスが良い立地です。国内外のお客様・研究機関

とのコミュニケーションをさらに充実させ、市場とお客様に密着し、ニーズに合わせた製品研究・開発を行うとともに、研究員がより活躍できる魅力的な環境を整え、優秀な人材確保、育成の取り組みにつなげてまいります。

| | |
|------|---------------------------------------|
| 名称 | 神戸研究所 |
| 所在地 | 神戸市中央区港島南町七丁目1番16号 神戸医療機器開発センター207 |
| 事業内容 | ナノ粒子『超高純度コロイダルシリカ』のコア技術を中心とした高機能素材開発 |

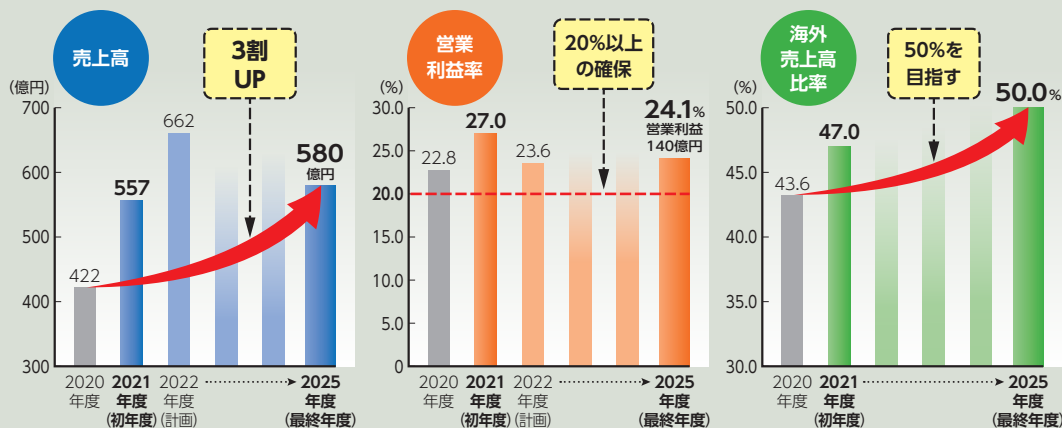
当社グループは中期経営計画の中で、将来の成長ドライバーとなる、研究開発投資を大幅に増額することを計画しています。「神戸研究所」の設立は、社である「限りなき進歩と創造」の下、中長期を見据えた当社グループの研究開発体制構築の序章です。

社会課題の解決に貢献するFUSOであるために、常に先を見据え、新製品開発・新技術開発への投資・挑戦を加速させてまいります。

TOPICS FUSO VISION 2025 初年度の進捗報告

2021年度～2025年度 中期経営計画

- 売上高**
3割アップを目指します。
- 営業利益率**
20%以上を確保します。
- 海外売上高比率**
50%を目指します。



サステナビリティ委員会の設置

●2021年12月

サステナビリティ基本方針の制定及びサステナビリティ委員会の推進体制を決議。

MISSION 企業の使命

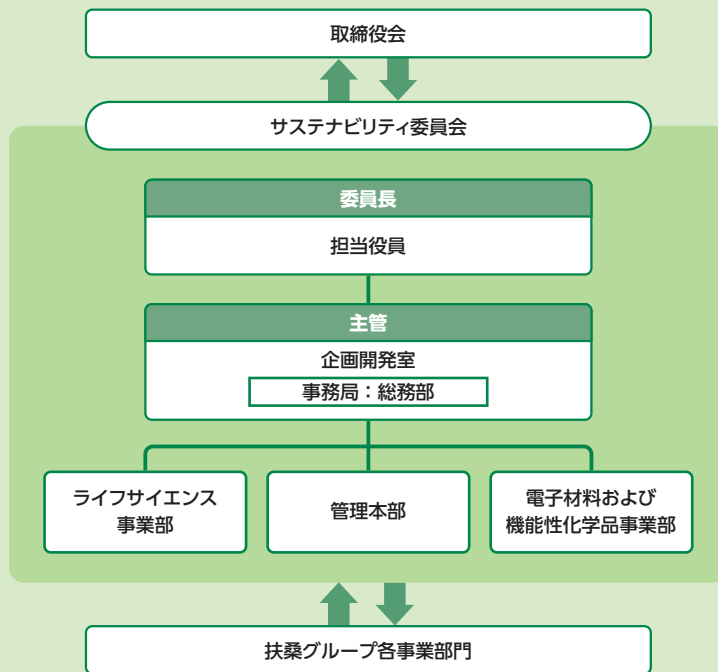
技術を通じて社会の課題解決に努め人々の暮らしの豊かさの向上・持続的な未来に貢献し続ける

VISION FUSOの目指す姿

社業の繁栄によってあらゆるステークホルダーの豊かさを築く

サステナビリティ基本方針

当社はグローバルニッチ企業のフロントランナーとして、その応用性と技術力で人々の暮らしの多様なシーンにおいて活躍し続けています。食品をはじめとする各産業界に貢献する果実酸とその誘導体、これからの社会における半導体産業に不可欠なシリカ関係製品群を提供し、未来に向け発展的な基盤を築いています。社是「限りなき進歩と創造」により取り組んできた絶え間なき向上心をもとに持続的な社会に貢献し、これからも永続的な企業価値の向上をはかってまいります。



企業版ふるさと納税

●2021年10月

福知山市へ寄付。救急車の更新、新型コロナウイルス感染防止対策の機材購入に貢献。



▲当社のロゴの入った救急車



大阪市女性活躍リーディングカンパニー 最高位の『二つ星』認証

●2022年1月

制度面の整備に加え、実績が伴う企業に認証される『二つ星』の認証取得。



『健康経営優良法人』 認定取得

●2022年3月

FUSO健康宣言「良い製品は体と心の健康から生まれる」を内外に公表し、社員の健康に関する様々な施策実施。



TOPICS 1

超高純度コロイダルシリカ 鹿島事業所起工式



2021年8月24日(火) 鹿島事業所にて、超高純度コロイダルシリカ製造設備の建設工事を始めるにあたり、工事の安全と順調な完成を祈念して起工式を執り行いました。8月当時の感染状況を踏まえ、建設関連の責任者並びに当社杉田社長をはじめとする関係者のみの出席となりました。

京都事業所に加えて、鹿島事業所に新たな超高純度コロイダルシリカの製造拠点を持つことで、より一層安定した製品供給に力を入れてまいります。完成は2023年4月を予定しております。

TOPICS 3

新市場区分「プライム市場」選択

当社は、2021年7月9日付で株式会社東京証券取引所(以下「東証」)より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、新市場区分において「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認しました。

この結果を受け、2022年4月4日に予定されている東証の新市場区分への移行において「プライム市場」を選択し、東証に対して申請することを、9月開催の取締役会にて決議しました。東証の定めるスケジュールに基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めております。

TOPICS 2

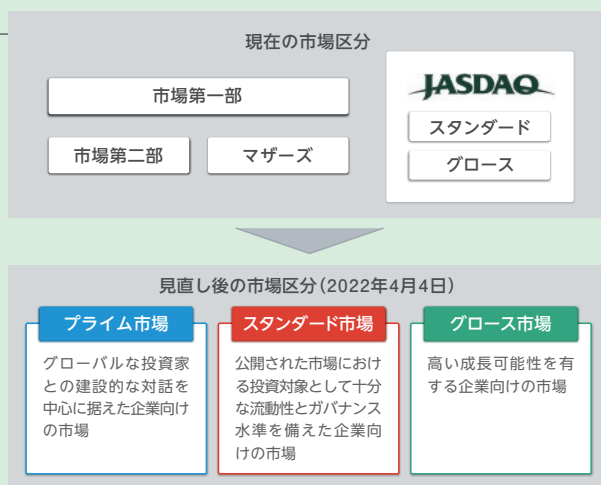
地方創生応援税制 (企業版ふるさと納税)



2021年10月25日(月) 福知山市役所において、大橋市長、水口消防長ご出席の中、企業版ふるさと納税寄附受納式が挙行され、当社杉田社長による挨拶ののち目録の贈呈が行われました。

「福知山市まち・ひと・しごと創生推進計画」が、2020年3月31日付けで、国から地方創生応援税制の対象計画として認定され、2千万円の寄付をさせて頂きました。

* 2019年度にも同様の寄附を行い、化学消防ポンプ自動車の導入費の一部としてご活用頂きました。



TOPICS

超高純度コロイダルシリカ 新設備建設



現在、超高純度コロイダルシリカは京都事業所内の2つの工場で製造されていますが、当社の東日本の製造拠点である鹿島事業所内に、3番目となる新たな製造設備を建設します。

半導体需要の増加により、主に半導体製造工程での精密研磨剤・CMP（化学的機械的平坦化）用途で使用されている超高純度コロイダルシリカの更なる需要

拡大が予想されています。

需要増に対応した供給体制の早期確立と、生産拠点分散によるBCP（事業継続計画）対策など、お客様の要求に応える万全な体制を整え、当社の高品質な製品供給力の優位性を一段と高めてまいります。

設備投資の概要

| | |
|--------|-------------------------|
| 所在地 | 茨城県神栖市東和田20番地 鹿島事業所内 |
| 設備投資内容 | 超高純度コロイダルシリカの製造設備及び付帯設備 |
| 投資予定額 | 約180億円 |
| 資金計画 | 自己資金により充当 |
| 操業開始時期 | 2023年4月(予定) |

SPECIAL NEWS

特報

中期経営計画

“FUSO VISION 2025”

2025年度（2026年3月期）までを、「更なる飛躍のための足場固めと新規事業創出・第三の柱構築への挑戦のための5年間」と位置づけ、当社グループの持続的な成長のため、「中期経営計画“FUSO VISION 2025”」を策定しました。事業環境の変化への対応と新たな価値の創造に挑戦し続けることで、社会課題の解決に貢献してまいります。



▶詳細は当社ウェブサイトでご覧いただけます。こちらからご覧ください。（通信料が発生する場合があります）

サブテーマ 社会課題の解決に貢献するFUSOであるために

期間

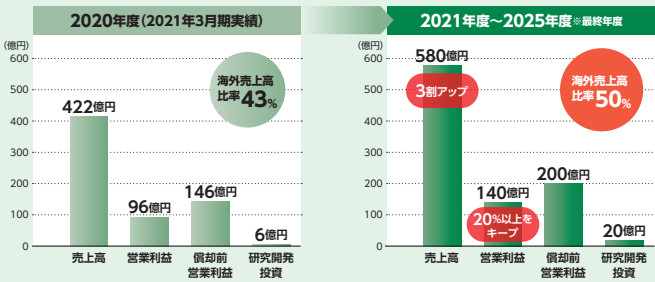
2021年度～2025年度（5ヶ年の中期計画）

経営目標

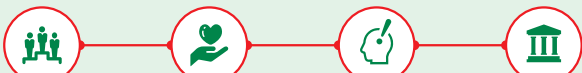
売上高580億円、営業利益140億円、償却前営業利益200億円を目指します

経営方針

- ① 既存事業における拡大する需要の取り込み、着実な対応
- ② 新規事業・分野への投資・挑戦
- ③ 持続的成長を支える経営基盤の強化（SDGsの取り組み）



目指す企業像



グローバルニッチトップを追求する
FUSO

人々の暮らしの豊かさの向上・持続的な未来に貢献し続ける
FUSO

現状に満足することなくInnovationに挑戦し続ける
FUSO

既存事業に続く成長性ある第3の柱構築で例れない強い企業である
FUSO

●企業責任・SDGsの取り組み

| | |
|--|--|
| ライフサイエンス事業部 食品素材および食品添加物製剤の開発で食品廃棄ロスを削減する | 2 気候変動 3 健全な産業と労働 4 質の高い雇用 5 ジェンダー平等 |
| 電子材料事業部 超高純度コロイダルシリカの開発・生産で、デバイスの高精細化・高性能化に貢献し、社会インフラに寄与する | 7 持続可能なエネルギー 8 豊かになる産業と労働 9 持続可能な消費と生産 10 人や国の不平等をなくす |
| 管理本部 健康で働きやすい環境により労働生産性の向上を図る | 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動 14 海洋資源 15 陸域生態系 |

●排水規制を順守し環境負荷を削減 ●埋立ゴミを削減し山地の保全に寄与 ●研修・教育体制の充実
●産業廃棄物の減量化を推進 ●サプライチェーン全体の省エネとCO₂削減 ●平等な評価・育成環境

「限りなき進歩と創造」の先にあるもの、当社グループは、その特定の方針で輝く数多くの金メダル製品と様々な価値観・アイデアを持つ社員がそれぞれの持ち場で生き活きと働き、社会に貢献し続けられる体力のある企業、そのような未来を思い描いています。

経営方針

① 既存事業における拡大する需要の取り込み、着実な対応

ライフサイエンス事業 事業方針

市場環境

- 食品関連 ● 食品廃棄ロスに対する問題意識の高まり
- 健康に対する関心の高まり
- 工業関連 ● SDGsの意識の高まり
- 共通 ● 国内市場の縮小
- 海外市場の拡大

将来予測

- 食品関連 ● 限られた食糧資源を有効利用する技術の開発
- 未利用資源を食用として利用できる技術の開発
- 東南アジアを中心とした人口増加と生活レベルの向上に伴う需要の拡大
- 工業関連 ● 電子材料関連の市場の継続的な伸長
- COVID-19の流行による需要構造の変化

事業方針

- 社会変化や課題の解決に寄与する技術と製品を提供する
- 人々の食、健康、住環境の向上に寄与する製品を提供し続ける

電子材料および機能性化学品事業 事業方針

市場環境

- 半導体関連 ● コロナウイルス禍によるリモートワークの拡大
- 5G、IoTの普及に伴う半導体の需要拡大
- より便利で豊かさを求める消費者の増加
- 低消費電力をはじめとした低環境負荷への要望拡大

将来予測

- 半導体関連 ● 新生活様式定着による半導体需要増
- 半導体設備の微細化と多層化による需要増
- 情報産業関連 ● 暮らしの高機能化を支える先端材料需要増
- 環境負荷を低減できる材料の普及

事業方針

- 超高純度コロイダルシリカ等の先端素材の開発・生産で、エレクトロニクス分野の高機能化で社会に貢献する

② 新規事業・分野への投資・挑戦

重点戦略 **ライフサイエンス・電子材料に続く、第三の柱となる新規事業確立に挑戦**

戦略的投資枠を設定 [主な検討手段]

アクション

- ✓ CVCファンドへのLP出資
- ✓ ベンチャー企業との連携
- ファンドの出資先スタートアップとの協業
- ✓ 産学連携
- 他のLPとの協業
- ✓ 社内外でのオープンイノベーションの推進
- ✓ M&A
- ✓ 外部リソースの活用

目指す成果

- 第3の柱確立に向けた基盤を固め、道筋をつける
- 長期的視野に立った事業確立を目指しており、中期経営計画においてはその足掛かりとして売上10億円程度の事業化を目標とする。

③ 持続的成長を支える経営基盤の強化

多様性の推進・意識改革

Diversity

- イノベーションを生み出せる組織風土
- 社員が活躍できる職場 (多様な視点・価値観)
- 働き方改革 (自己実現・働き甲斐)

企業責任・SDGsの取組

ESG

- コーポレートガバナンスの一層の強化
- 非財務目標の「定量化」「可視化」とコミットメント

扶桑ニュース

特集 ESGへの取り組み

TOPICS ① SDGs

扶桑化学工業株式会社は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

従来から取り組んできた、「製品を通じて社会に貢献する企業」として、さらに10年先を見据えて、両事業部門それぞれの取り組みを始められています。ライフサイエンス事業では「食品添加物の開発で食品廃棄ロスを削減する」、電子材料事業では「超高純度コロイダルシリカの開発・生産で、デバイスの高精細化・高性能化に貢献し、社会インフラに寄与する」企業を目指して事業に取り組んでいます。

当社ウェブサイトの「ESG」コンテンツ内に、新たにSDGsへの取り組みを紹介するページを追加しました。



TOPICS ② 企業紹介動画



こちらからご覧いただけます。
(通信料が発生する場合があります)

鹿島事業所に完成した当社の新しいリンゴ酸設備、京都事業所に増設された超高純度コロイダルシリカの製造設備、更には東京研究所や当社製品を支える品質管理の現場を新たに加え、会社全般を紹介する約14分の新しい動画を公開しました。

TOPICS ③ 「ホワイト物流」推進運動

当社は、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、自主行動宣言を提出いたしました。

「ホワイト物流」推進運動は、深刻化が続くトラックの運転者不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化や、女性や高齢の運転者も働きやすい労働環境の実現に取り組むものです。

当社は、これまでも物流事業者と連携しながら、運転者不足に対応した環境と人に優しい物流システムの構築に取り組んでまいりました。今後も、取引先の協力のもと、一層の物流効率化に取り組み、物流事業者の労働環境の改善を着実に推進し、物流事業者との連携を通じて、持続可能な物流の実現を目指してまいります。



写真はイメージです。

TOPICS ④ 新型コロナウイルスへの対応

当社は、顧客への製品供給に影響が出ないよう、各事業所においてマスクの着用、アルコール消毒、検温、換気等の三密の回避といった新型コロナウイルス感染予防対策を実施・徹底しています。

通勤時の感染リスク軽減対策として導入した時差出勤やテレワークも、新しい働き方として定着してきています。



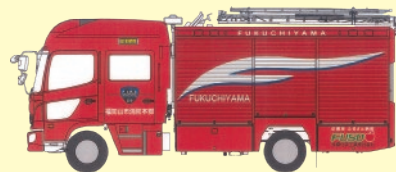
Topics 1 地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を活用し寄付[京都事業所]



2019年12月23日、福知山市役所において、大橋市長、水口消防長ご出席の中、企業版ふるさと納税、寄付受納式が挙行され、当社中野社長(当時)の挨拶ののち目録の贈呈が行わ

れました。

福知山市の「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業～企業誘致、環境対策に向けて～」が地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の対象事業として2019年3月29日に認定されています。福知山長田野工業団地立地企業の危険物火災等に対応できる化学消防ポンプ自動車の導入により、防火・防災に対する安全対策を講じ就労環境の改善をはかるものとし、福知山市が策定された事業に、当社が企業版ふるさと納税制度を活用して一千万円の寄付をさせていただきました。



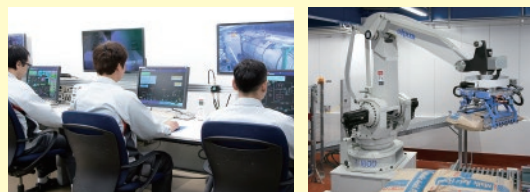
Topics 2 新リンゴ酸プラント本格稼働[鹿島事業所]



2017年茨城県神栖市に扶桑化学工業・東日本初の生産拠点として開設された「鹿島事業所」。無水マレイン酸・フマル酸の製造設備に加え、2019年には新たにリンゴ酸製造設備が完成しました。

これにより、当社の大阪工場とは異なり、原料からの一貫生産体制を実現しました。

海上輸送に有利な立地や広大な敷地を活かし、「果実酸コンビナート構想」のもと、リンゴ酸だけでなくその他各種果実酸類生産品目の拡充による世界的シェアの拡大と果実酸ビジネスの拡充を目指していきます。



Fuso News 1

リンゴ酸新工場完成(鹿島事業所)



2019年7月、鹿島事業所(茨城県神栖市)において、当社ライフサイエンス事業部の戦略品であるリンゴ酸の製造設備の竣工式が催されました。

大阪工場(大阪府堺市)に続く国内2つ目のリンゴ酸設備で、当社の有する生産能力は世界最大規模となり、最新鋭の設備では無水マレイン酸を原料としリンゴ酸の一貫生産をさらに効率的に行っていきます。

アジア地区では人口拡大に伴う需要増に加え、食品用途を中心に安全で安心、品質の高い製品が求められており、当社リンゴ酸やその他の果実酸を使用していただく機会が、益々増えていくことが予想されております。これら需要増に応えるための準備が整いました。



Fuso News 2

環境負荷を減らすためにLED化を推進中

企業の社会的責任を認識し、環境保護と大気汚染の予防に努める当社では、現在事務所照明のLED化を積極的に進めており、2019年8月には東京本社で使用されている汎用蛍光灯の約82%をLED照明に切り替える工事を実施しました。特に、業務時間内に常時点灯させるエリアについては、その全てをLED化しました。

今回の東京本社照明器具のLED化により、これまでの汎用蛍光灯使用時に比べて約60%のCO₂削減効果を見込んでいます。また、蛍光灯と

異なり、向こう10年程度電灯交換も無くなるので、廃棄物の削減にも寄与できる上、職場も一段と明るくなり、職場環境の改善にも役立っています。





PMP Fermentation Products, Inc.

PMP; Premier Malt Product



●歴史

PMPの歴史は、アイオワ州で小さなビール醸造所を運営していたLeisy3兄弟(1892年:Leisy Brewing Companies設立)が、1856年からアメリカ中東部ペオリア市のイリノイ川沿いにある古いビール醸造所を購入した時から始まります。1910年頃にはシカゴ近郊で最大のビール製造者になったものの、1920年の禁酒法によってビールの製造停止を余儀なくされました。



ビール醸造所の名残

●禁酒法

その後、工場を引き継いだPremier Malt Products Co.はケーキ・クッキーに使用するモルト(麦芽)を製造。

(ただ、従業員が家庭で飲むビールも作っていたようですが)禁酒法廃止後は、Pabst社が、家庭用ビールのモルトの製造を継続しました。

●グルコン酸ナトリウム

現在、PMPの主力製品であるグルコン酸ナトリウムの製造は、Pabst社がビール瓶の洗浄にグルコン酸ナトリウムを使用するために始めました。1987年に藤沢薬品工業(株)(現アステラス製薬(株))が工場買収後、2003年には当社がアメリカ事業の拠点として事業を継承しました。PMP製品の主原料である糖液はトウモロコシから作られますが、PMPは米国トウモロコシの50%以上を産するコーンベルトの中

心に所在し、原料調達に有利な環境でビジネスを行っています。主に中国からの輸入品との競争はありますが、昨

年アンチダンピング提訴にて当社に有利な決定を米国政府より受け、現在はアメリカ唯一のグルコン酸ナトリウムメーカーとして米国内シェア約80%~90%を保持しています。PMPが製造販売するグルコン酸類は、コンクリートの凝結遅延、洗剤のキレート、金属表面処理、融雪、肥料、食品のpH調整など、様々な用途に使用されています。自然環境に存在するグルコン酸類のような“環境に優しい素材”へのニーズが年々高まっており、米国内グルコン酸類マーケットも拡大し続けています。業績の拡大に伴ってグループ内での重要度も高まってきており、今後もライフサイエンス事業の海外ビジネスを牽引していきます。



FUSO NEWS 1

超高純度コロイダルシリカ 新ライン完成



▲京都第1工場
◀京都第2工場

旺盛な需要に答えるために京都第1工場と京都第2工場において進めておりました超高純度コロイダルシリカの新ライン増設工事が完成し、現在試作品の製造を開始しました。半導体市場はこれまでのスマートフォンやPCに加え、AI(人工知能)、IoT(Internet of Things)、自動運転車やサーバー向けを中心に拡大が続いており、当社超高純度コロイダルシリカを使用したCMPスラリーの需要も益々増えていくと予想されています。



▲▶竣工式

FUSO NEWS 2

リンゴ酸新工場建設(鹿島事業所)



2019年7月の完成を目指し、ライフサイエンス事業部の戦略品であるリンゴ酸の製造設備の建設工事が順調に進んでいます。建設場所は、三井化学株式会社から有機酸設備(無水マレイン酸・フマル酸の製造)を譲り受け、昨年11月にスタートした鹿島事業所となります。完成すれば、最新鋭の設備で、原料である無水マレイン酸からリンゴ酸の一貫生産が実現します。大阪工場に続く2つ目のリンゴ酸設備による生産増強により、さらなるリンゴ酸ビジネスの拡大に挑戦していきます。